

を忘れさせるため、酒をのむようになりました。酒をのむと気持ちが大きくなり、お金を使い、遊びまわり、生活がだんだん乱れていきました。それにつれて血脇先生や猪苗代高等小学校時代の友だちからの借金が多くなつていきました。

そのころ、ある小説の主人公に「野々口精作」という名の青年がいて、とても、頭がよく医者を志していました。その青年が、あることから酒におぼれ、悪い遊びをしてなまけ、だんだんとだらくしていくというのです。

清作は、この小説を読み、自分を見る思いがしました。今までの乱れた生活を正さなくてはならないと思い「清作」の名を変えることを考えました。

猪苗代に帰ったとき、このことを小林先生に相談しました。そして「英世」という名をつけてもらいました。「英」は英雄などに使い、すぐれるという意味、「世」は世界などに使い、広いという意味を持っています。

これから、「野口清作」は「野口英世」に生れ変わったのです。